

2017年8月13日

福音書からのメッセージ

しかし、強い風に気がついて怖くなり、沈みかけたので、「主よ、助けてください」と叫んだ。

(マタイによる福音書 14 章 30 節)

弟子たちを乗せた舟が逆風のために、進まなくなりました。その彼らの元に、イエス様が湖の上を歩いて来られたのです。ありえないような光景の中、一番弟子であったペトロはイエス様に対して、こう言います。「わたしに命令して、水の上を歩いてそちらに行かせてください」と。自分に不思議な力を与えてほしいと願うのではなく、イエス様の命令によって歩かせてほしいと言うのです。

わたしたちも聖書を読み、礼拝に参加する中で、イエス様に従って歩んでいきたいと願います。しかしその道は、大変厳しいものです。差別された人たちや罪人と呼ばれた人たちと共に生き、手を差し伸べ、歩んで行かれたイエス様。そしてイエス様は自分の命を差し出すまでに、人々を愛し抜きました。わたしたちは本気で、イエス様と同じように生きることなどできるのだろうか、そのような思いになります。

それはたとえて言うなら、湖の上を歩くようなものです。わたしたちは自分の考えで湖の上など歩けないと決めつけます。同じようにイエス様が歩んだようには歩めないとすぐにあきらめてしまうかもしれません。しかしペトロは違いました。「わたしは歩きたい、だからイエス様、そう命じてくれ」。このペトロの信仰、すごいと思うのです。周りの弟子たちは、きっと思っていたでしょう。「お前なんかには無理だ、やめとけ」。でもその中で、イエス様はペトロに「来なさい」と告げます。

ペトロは、その一步を踏み出します。それが大事なのです。わたしたちはイエス様



の導きに、呼びかけに、招きに、その一步を踏み出せているでしょうか。「いやいや、イエス様、ここは水の上です。立てるはずがありません」。自分の乏しい経験を元に、首を横に振る。それは実は、神さまのみ業

を否定することとイコールなのです。

物語には、まだ続きがあります。ペトロは驚くべきことに、水の上を歩いてイエス様に近づいていきました。でも急に怖くなります。現実を見てしまったのです。ただイエス様を信じて一步を踏み出したのに、現実気がついて、恐れをなしてしまう。わたしたちにもよくあります。イエス様を信じて歩き出しても、強い風は吹いたまま、足もとの水がコンクリートにはかわらない。でも信じて、何とか信じて、二歩、三歩と足を前に出すけれども、恐れてしまうのです。

しかしイエス様は、恐れ、沈みかけていたペトロの元に行き、手を差し伸べられました。何度も信じては疑い、でも疑いながらまた信じていくペトロの姿。イエス様はそのペトロの信仰を、「よし」とされたのではないのでしょうか。

わたしたちの信仰も、それでよいのです。たとえ途中で怖くなったとしても、沈みそうになってイエス様に助けを求めたとしても、それでいいのです。

恐れずに、イエス様に従い、まず一步踏み出していきたいと思います。

桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町 184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>